

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第六號

第三卷

大正五年十二月一日發行

論說

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(一)

戸田 海市

最小活資ノ免稅ヲ論ス(三、完)

神戸 正雄

參觀交代制度ノ經濟觀(一)

本庄 榮治郎

『座』ノ研究(三)

三浦 周行

代表紙幣ト獨立紙幣(三、完)

作田 莊一

雜錄

公營造物ニ關スル美濃部、織田、松本三博士ノ
所論ヲ讀ミテ東京市電車賃率車券問題ニ及ブ(三、完)

福田 德三

戰後ノ經濟戰ニ對スル準備

神戸 正雄

簡易保險更張ノ一方面

財部 靜治

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(一)

山本 美越乃

人口ト勞銀ノ趨勢

高田 保馬

經濟雜話(六)

田島 錦治

經濟漫錄(三)

瀧本 誠一

金井法學博士在職二十五年祝宴記事

田島 錦治

社會政策學會第十回大會記事

河上 正雄

京都法學會大會記事

河上 正雄

雜

錄

公營造物ニ關スル美濃部、
織田、松本三博士ノ所論ヲ
讀ミテ東京市電車舊乘車券
問題ニ及ブ(其三)

福 田 徳 三

(七)

ぞつくす氏ハ『公經濟的欲望充足』ニ三箇ノ最
高原則アリトス。即チ

(一) eines allgemeinen Genussgutes (一般享樂財ノ原則)。

氏ハ後ニ之ヲ收メテわぐな一氏ト同シク Prinzip der reinen Staatsausgabe; Steuerprinzip (純粹支出ノ原則、租稅原則) 又ハ reine Kollektivbedürfnisse (純粹共同欲望原則) 等ト謂ヘリ。(しえいんぐひ全書中ニ於テ)

(二) einer öffentlichen Anstalt (公營造物ノ原則)

(三) einer öffentlichen Unternehmung (公企業ノ原則)

(一) ハ一般歲入ヨリ必要ノ經費ヲ支出シテ充足スル共同欲望ニシテ從テ之ヲ充足スルニ全然無償主義ヲ取ル。無償トハ其充足ニ對シ特ニ報償ヲ

要セザルコト ohne spezielle Vergütung ヲ云フ
即チわぐな一氏ガ名ケテ Prinzip des generellen Entgeltes (一般報償ノ原則) ト云フモノニ支配セラレ Prinzip des speziellen Entgeltes (特殊報償ノ原則) ニ支配セラレザルモノヲ云フ。げるらは并ニしある両氏ハ此ノ一般對特殊報償ノ原則ナルモノヲ否認シ之ヲ以テわぐな一説ノ大缺點トナセリ。故ニ今非難ナキ部分ノミヲ取リテ予ハ之ヲ無償主義ト名ケ置ク可シ。第二ノ營造物原則トハぞつくすニ從ヘバ左ノ如シ。

wird für die Benützung der Jedermann zur Verfügung stehenden Anlagen ein Entgelt von jener Art behoben, wofür man den Terminus "Gebühr" gewählt hat. Den Begriff "Gebühr" formulieren wir dahin, dass wir darunter diejenige Vergütung einer gemeinwirtschaftlichen Leistung verstehen, welche weder nach dem Werthe der Leistung für den Empfänger, noch nach den Kosten der einzelnen Leistung, sondern derart bemessen wird, dass die Gesamtsumme der entfallenden Vergütungen einen gewissen Betrag ergebe, der zur Bedeckung der Gesamtkosten der betreffenden Leistungen bestimmt ist.¹⁸⁾

(右意識。營造物原則ニ從フモノトハ各利用者ノ利用ニ對シ

『手数料』ト稱スル一種ノ報償ヲ徴收ヘルモノナリ。手数料トハ共同經濟ノ役務ニ對ヘル報償中役務ノ受取手ニ對スル役務ノ價值ニモヨラズ又ハ箇々ノ役務ノ費用ニモヨラズシテ此等納付報償ノ全額ガ其當該役務ニ要スル總費用ヲ支辨ス可キ若干額タル可キヲ以テ標準トシテ定メラルルモノナリ云フ。

而シテ此總費用額ヲ超過スルトキハ其超過額ハ一種ノ租稅タリトス。反對ニ其制限ニ及バザルトキハ第一ノ無償主義、純粹支出主義ニ近クモノトス。故ニ營造物原則ハ又タ之ヲ (Gebührprinzip) (手数料原則又ハ主義) ト稱ス。此點ハ他ノ財政學者モ一樣ニ認ムル所ニシテわが國ノ氏亦然リ、唯ダ氏ハ更ラニ之ニ名ヲ下シテ『特殊報償主義』トナス、コハしあゝる、げるらは両氏ノ反對スル所ナリ。

第三ノ公企業原則トハさつくすニヨルン。Wenn die von den Leistungsempfängern geforderte Vergütung nach dem wirtschaftlichen Werthe der einzelnen Leistung für den Käufer bemessen und nicht blosse Kostendeckung, sondern ein Ueberschuss erstrebt wird, dessen Höhe sich eben aus dem Mehrwerthe der Leistungen über ihre

Kosten und dem Masse der Nutzung ergibt (役務ノ受取手(利用者)ヨリ徴收スル報償ガ其受取手ニ對スル各箇ノ役務ノ經濟的價值ヲ標準トシテ定メラル、場合ヲ云フ。即チ單ニ費用ヲ支辨スルノミナラズ餘剩ヲ生ゼンコトヲ期スルヲ云フ。其餘剩ノ高ハ役務ガ費用ニ超過スル餘剩價值此語注意ト利用ノ度合トニヨリテ定マルモノナリ) ト。

右ヲ他ノ語ヲ以テ言フトキハ第一ハ無償主義ニシテ特ニ役務ノ利用者ヨリ報償ヲ納メザルモノ、第二ハ役務ノ費用ダケヲ支辨セシムル實費主義、第三ハ若干ノ利益ヲ見積ル價格(代價)主義是レナリ。假ニ表示スレバ

- (一) 純粹共同經濟 (無租稅) 主義
- (二) 營造物 (實費支辨) 主義
- (三) 公企業 (一般價格利用價值) 主義

トナル可シ。是レ總テリーふまんノ公經濟、公營造物、公企業ノ三大別ト租ボ似タルモノナリ

之ニ反シわぐな一ハ四原則ヲ分ツ、左ノ如シ。

- 1) Das Prinzip der reinen Ausgabe 2) das sog. (Fiebt-)prinzip 3) das privatrechtliche (gewerbliche) Prinzip 4) das Regalisierungs (ev. Besteuerungs) Prinzip
- (一) 純支出主義 (二) 手数料主義 (三) 私經濟(營業)主義 (四) 特權(場合)ニヨリテハ租稅主義

さつくすハ(四)ノ特權主義ヲ別ツノ不可ナルヲ論ジ且ツ(三)ノ私經濟主義トハ純然タル私經濟又ハ營業ト全然同一ナリトスルハ誤ナリトシテ公企業ガ餘剩主義ヲ取ルモ直チニ之ヲ目シテ純然タル私經濟的營業トナス可カラザル所以ヲ詳論スル(四)ニ付テハ主張者わぐな一以外之ヲ認ムルモノ財政學者中ニ殆ンド之レナケレバ深く論究ノ要ナシ。之ニ反シ(三)ノ私經濟主義ニ就テハわぐな一ノ説甚ダ汎ク行ハレ今日ノ財政學者ノ大多數(獨逸ノ學問ニ通ゼザルモノハ元ヨリ論外ナリ)ハ國家ノ私經濟的事業、私經濟的收入等ノ語ヲ用キわ氏ノ説ヲ其儘ニ襲踏ス我邦ノ財政書ニ於テハ如何ナリヤ知ラザレドモ又タ然ルナラント推察ス。予ハ本問題ニ就テ少シク思フ旋ラシタ

ル結果わぐな一流ノ國家私經濟云々ノ説ハ誤レルモノニシテ、さつくすノ説正鵠ニ中レリト信ズル者ニシテ、而シテ此點ヨリシテ市營電車并ニ其乘車券問題ニ正シキ解決ヲ得可シト考ヘツ、アルモノナリ。

さつくすノ説ハ粗ボ此ノ如シ、曰ク『公企業ノ徵收スル代價ハ Taxpreis, Taxen ナリ。此ト手数料トハ其報價ノ定メ方原則的(根本的)ニ異ナレリ。然レドモ兩者共ニ定率 (Zins) ト稱セラ、ガ故人往々之レヲ混淆ス。公企業ノ私企業ト異ナル點ハ、公企業ハ其供スル役務ノ價值ガ費用ヲ償フニ及バザル場合ニモ、長期間損失ヲ忍ンデ經營スルコトアルモ、私企業ハ早晚損失ニ堪ヘズシテ廢滅ス可キコト之レナリ。公企業ノ求ムル餘剩ナルモノハ、必ズシモ即時又ハ短期ニ於テ生ズルヲ要セズ長期ニ涉リテ算當セラレ、從テ其徵收スル代價ガ費用ヲ償フニ足ラザルコト始メヨリ明ナル場合ニモ公企業ハ起リ得可ク、其利用ノ増シ費用ノ減ズルニ從ヒ之ヲ補填スルヲ待ツヲ得ルナリ。是レ公、私企業ノ異ナ

19) 獨リ此問題ノミカラズ財政學ノ全體ニ涉リテ予ハ常ニ Sax ノ Wagner ニ勝レルヲ信ジツツアリ、然ルニ Wagner 獨リ世ニ行ハレ Sax ノ殆ンド顧ミラザルハ一ノ恨事ナリ。Sax チ以テ一ノ交通政策專門家ト爲スハ彼等知ラザルモ亦甚シク云フ可シ。

ル第一ノ點ナリ。次ニ其代價ヲ定ムルニ方リテ公企業ハ其代價ノ多寡ガ國民ノ全體ニ及ボス可キ影響ヲ度外ニ置カズ又タ置クコトヲ得ザルニ、私企業ハ此クノ如キ顧慮ヲ要セザル之レ兩者ノ異ナル第二ノ點ナリ。サレバ公企業ハ其時限リノ最高ノ餘剩ヲ得ルコトヲ勉メズ、一般公共ノ利益ノ爲メニ特ニ其代價ヲ低減スルコトアリ、又セザル可カラザルモノナリ。此點コソ實ニ公企業ヲ公營造物ニ導ク連鎖ナリ、故ニ公共ノ利益之ヲ必要トスルトキハ餘剩ヲ收得スルコトハ全然之ヲ斷念スルニモ至ル可ク、然ル場合ハ公營造物トナル、全ク斷然セザル間ハ即チ公企業ナリ。わぐな一ガ私經濟云々ト云フモ公企業ニハ此理由ヨリシテ決シテ純私經濟の主義ノ行ハルコトナク又タ行ハル可キモノニアラズ。わ氏ハ鐵道ト運河トヲ私經濟的營業ナリト云ヒ乍ラ直チニ語ヲ添ヘテ「此種ノ收入ハ純私經濟收入トハ少ク異ル」云々ト云ヘルハ氏ハ自ノ主張ノ不可ナルヲ自白スルモノナリ。サテ以上三種ノ主義ヲ國家ノ交通事業ニ適用スル標準ハ

Gleichheit, Gleichmässigkeit oder Ungleichheit der Benützung und der Verteilung des Nutzens der betreffenden Veranstaltungen (其當該事業利用ノ均一ナリヤ不均一ナリ、并ニ其利用分布ノ均一ナリヤ不均一ナリヤ)是レナリ。國家ノ交通機關ガ或階級或職業ノミノ利用スル所タルトキハ、之ハ公營造物ニアラズシテ公企業タル可シ(無償主義ハ元ヨリ問題トナラズ)。公營造物タルニハ國民ノ全體ヲ通ジテ利用ト其ノ分布ガ少クトモ或度マデ均等ナルコトヲ前提トス即チ交通網ノ設置ノ均等ナルコトガ其前提條件ナリ。サレバ國家ノ交通機關ハ始メハ皆公企業トシテ起ルモノニシテ交通網ノ擴張ニ從ヒ公企業ヨリ漸次公營造物ニ移行行クモノト云フヲ得可シ。カクテざつくすハ各種交通要具ニ就テ世人ノ考フルガ如ク(一)水陸路ハ無償主義(二)郵便電信ハ手數料主義(營造物)(三)鐵道ハ代價主義(公企業)ナリト云フガ如ク抽象的ニ斷定スルハ不可ナリトシ交通要具ヲ分類シテ左ノ如クセリ。
(水陸路ニ就テハ共同經濟ハ唯ダ一ノ運送要素 Transport

element タル「路」ニ就テ存スルモノ。運送役務(Transportleistung)ノ實行ハ私經濟ガ自ラ乗物(Fahrzeug)并ニ動力ヲ出シテ之ヲ負擔ス。

(二) 郵便電信ニ就テハ公組織ハ運送役務ヲ供スルモノニシテ、路ハ始メヨリ與ヘラレアリテ(電信ノ「路」ハ空氣、公地、海等ナリ、電線ハ路ニアラズ「Fahrzeug」ナリ)問題トナラズ(三) 鐵道ニ就テハ「路」(「乗物」及「動力」ト密接ニ結合シアリ共同經濟ハ一切ノ運送要素ヲ供スルモノナリ²⁰⁾)

ざつくすハ更ラニ第二卷^{二二}ニ於テ特ニ鐵道軌道ニ就テ『公企業主義ト公營造物主義トノ選擇』ナル題ヲ設ケテ細論ス。其大意ニ曰ク、鐵道ニ付テハ一ノ無償主義ハ全ク問題トナラズ何トナレバ鐵道ノ利用并ニ其利用ノ分布ハ決シテ國民全體ニ一般均等的ナラザレバナリ、故ニ決ス可キハ公企業カ公營造物カ是レノミ。之ニ付テ先ヅ忘ル可カラザルハ其求ムル全收益ノ高ノミナラズ役務ノ報償ガ重要ナル區別ノ標準タルコトナリ。營造物ニ於テハ全費用又ハ費用一部ノ支辨ヲ期スルモノナルニ企業ニ於テハ常ニ箇々ノ役務ノ代價ヲ之ヲ受クル者ニ對スル價值ニヨリテ定ムルモノナリ。手數料主義ハ一定ノ金額

ヲ收ムルヲ以テ足レリトシ、其役務ノ價值ニ就テハ深ク問フヲ要セズ、手數料テフ公收入ハ其性質上或ル度マデ均一的取扱ヲ前提ス。サレバ公營造物トシテノ鐵道ノ經營ガ箇々ノ役務ヲ其流通價值ニ從テ十分ニ評價セズ單ニ一定ノ額ヲ限リトスルニ反シ、公企業トシテノ鐵道ハ其以上ノ收入ヲ納ム可ク又タ役務ノ買手ニ對スル價值ヲ標準トシテ定メタル代價ハ、役務其モノノ費用ヲ辨ズルニ足ラザルコトモアル可シ、例ヘバ鐵道利用ノ範圍狹キ場合ノ如キ是レナリ。故ニざつくす、しゆたいん、らいつえんしゆたいん等ガ國有鐵道ハ公營造物ト營業トノ兩性質ヲ兼スト云ヒタルハ、公企業ノ特性ヲ能ク言ヒ表ハスモノナリト評シタリ。²¹⁾

乃チざつくすハ一ノ發展則ナリトシテ曰ク、Anfänglich gilt die öffentliche Unternehmung, bei entsprechender Verdichtung des Netzes ist zum Gebührenprinzip überzugehen (始メハ公企業主義ヲ執ル可ク交通網ノ稠密トナルニ伴ヒ手數料主義ニ移行行ク可シ)ト。殊ニ放下資本ヲ償却

20) 以上八十頁ヨリ八十六頁ニ就テ摘記ス。

21) "Die Eisenbahnen haben einen doppelten Charakter: der Erwerbsanstalt und der öffentlichen Anstalt" (*Reichsraumtarif*, Gewichts- u. Raumtarif. S. 1) - "Die Bahnen sind einerseits Diener des öffentl. Interesses wie andere öffentliche Anstalten, wie ein Amt, aber in ihrem wirtschaftlichen Prinzip vor allem ein Geschäft. (Stein, Eisenbahnrechtsbildung S. 29.) Sax, a. a. O. Bd. II. S. 225.

22) Schönberg's Handbuch. Bd. S. 584.

スルマデハ公企業主義ヲ執ル可キモノニシテ、而シテ其放下資本ガ如何ニシテ釀出セラレタルカハ此主義ヲ定ムルニ關係アリ、概シテ云ヘバ一般歲計ヨリ其資本ヲ釀出シタルトキハ租稅主義ヲ取ル可ク。公債ニヨリテ支辨セラレタルトキハ手數料主義又ハ公企業主義タル可ク、殊ニ資本額大ニシテ從テ公債ノ高大ナルトキハ公企業主義ニヨリ餘剩收益ヲ得テ償却ノ途ヲ圖ラザル可カラズ。然レトモわづな一ノ如ク手數料主義ハ放下資本ノ回收セラルルニアラザレバ用ニ可カラズトスルハ誤ニシテ、手數料主義ニハ資本未タ回收セラレズ經營ノ不足ハ一般歲入ヨリ補填スル場合モアリト云ヘリ。

今此等ノ議論ヲ綜括シテ考フルニ無償主義ハ全然問題外トシテ國有鐵道ノ經營ハ其利用ガ局部的ナル限リハ之ヲ公營造物トナス可カラズ、其利用ガ理想的ニ一般均等ナラザルモ或度マデ一般均等ナルニ至リ、且ツ費用支辨ヲ以テ足レリトシ餘剩ノ獲得ヲ期セザルニ及ンデ、始メテ公營造物タル可ク、ソレマデハざつくすハ之ヲ

公企業（わづな一又しゆたいん等ハ之ヲ國家ノ私經濟的營業ト名ク）トシテ取扱フ可ク、殊ニ資本償却ノ爲メニ餘剩ヲ見ンコトヲ期スルトキハ然ル可シト云フニアリ。唯其餘剩ガ純營利的ナリヤ否ヤニヨリテ觀察ヲ異ニス可ク、ざつくすハ公企業ノ收ムル餘剩ハ如何ナル場合ニモ私經濟ト全然同一ナラズ、常ニ公共一般ノ利益ノ考慮ニヨリテ影響スルモノナルコトヲ公企業ノ特色トシ國有鐵道ハ即チ其一例ナリトスルモノナリ。

(八)

市營電車ハ少クトモ今日ノ文明都市ニアリテテ、或度マデハ一般均等的利用ノ機會ヲ供シ又ハ供センコトヲ期スルモノト云フ可ク、東京市電車ノ如キハ幾多ノ私企業ヲ合シテ均一賃率ノ下ニ統一的ニ經營スルモノナレバ、此點ヨリノミ考フルトキハ公營造物ノ性質ヲ帶ブルコト多キモノタル可シト雖モ、經濟上最重要ノ點タル其料金ノ性質ニ至リテハ右諸學者ノ一樣ニ認ムル如ク未ダ資本ノ償却（市債ノ償却）ヲ終ラザル

遠キ狀態ニアリテ、わづな一ノ所謂特殊役務報價タルヲ得ズ必ズ資本ノ償却ノ爲メニ若干ノ餘剩ヲ見當ニ算出セザル可カラザルモノニシテ、曩キニ乘車賃引上ゲニ際シ反對ノ聲喧シキニ拘ラズ、經濟上ノ立場ヨリシテハ或度マデノ引上ゲモ亦已ムヲ得ザル可シト認メラレタルハ主トシテ此點ニアリ。即チ東京市電車ハ其料金制定ニ於テハ始メヨリ餘剩經營タラザル可カラザル狀態ニアリ、從テ其料金ハ法律上ハイザ知ラズ經濟上ニ於テハ決シテ手數料タルモノニアラズシテ一ノ代價ナルコトハ疑ヲ容レズ、此點ハ凡テノ經濟學者ノ均シク認ムル所ナリト信ズ。然レトモ徵收スル料金ガ手數料タラズトテ直チニ事業其モノガ私經濟的事業タルニアラズンテ、ざつくすノ公企業ナルモノ最モ能ク其性質ヲ言表ハスモノナリ、從テ美濃部博士ガ營造物ト公企業トヲ全然同一トスルコトハ行政法上疑ノ容ル可キナシトスルモ、經濟學、財政學、交通政策學ニ於テハ之ヲ探ルヲ得ズ、況ンヤ行政法學上ニモ若干ノ疑ヲ容ル可キ餘地アルコト前段

述ブル所ノ如クナルニ於テヤ。而シテ又東京市電車ヲ單ニ一ノ公營造物ナリト云ヒ更ラニ直チニ之レヨリ演繹シテ、從テ其徵收スル料金ハ手數料(使用料)ナリト云フガ如キハ經濟財政學ノ上ヨリハ之ヲ暴論ト目スルノ外ナシ、斯ク主張スル論者ハ電車賃引上ゲヲ主張スル際ニハ資本ノ償却ヲ一ノ重要ナル費目トシテ計上シ之ニ基キテ舊賃率ノ到底維持シ難キヲ力説シタル同一人ニアラズヤ、自家ニ便ナルトキハ餘剩主義ヲ論據トシ不便ナルトキハ手數料(使用料)主義ヲ論據トス、其理路ノ不透徹ハ言フマデモナ度ク其態ノ不合理ナル驚クノ外ナシ。否右一點ハ假リニ之ヲ讓歩スルモ更ラニ一ノ重要ナル點アリ曩キニ電車賃引上ゲノ際示サレクル計算ニヨレバ四十萬圓ノ一般經濟編入企ナルモノヲ計上シアリ。是レ實ニ電車ノ設備經營ニ要スル以外別ニ這般ノ餘剩即チ利益金ヲ産ミ出ス可キコトヲ標準トシテ電車賃ノ引上ゲヲナシタルモノニ外ナラザルナリ。即チ始メヨリ一定ノ利益ノ獲得ヲ目的トシテ料金ヲ定メタル

モノニシ。其料金ハ資本ノ償却ヲ論外ニ置クモ純然タル一ノ代價 Price ナルナリ、手敷料（使用料）ニ關シテ如何ニ異説アリトモ始メヨリ資本償却以外利益ヲ包含スルモノヲ手敷料ナリトスル論ハ財政學上斷ジテ之レヲ容レザルナリ、然ルヲ『此所民法立入ル可カラズ』ト云フガ如キアラバ其ハ學問上甚シキ不應爲ノ所爲ナリ。

抑モ市營電車ガ資本回收以外ニ餘剩ヲ目的トスルハ正當ナリヤ否ヤト云フニ、單ニ電車其モノヨリ云ヘバ之ヲ目的トセザルヲ可トスルハ言フマデモナキ所ニシテ、ざつくす氏ガ鐵道網ノ稠密ニシテ利用ノ一般均等トナリ公營造物ノ性質ヲ十分ニ具備スルニ至ルコトガ發展法則ノ要求スル所ナリト云フ所以ナリ。殊ニ都市電車ノ如キハ遠キ將來ノ理想トシテハ更ラニ進ンデ無償主義ニ近ヅク可キナリト信ズ。全然無償タラザルマデ、其料金ノ極メテ低クシテ一般市民ノ利用ニ此ノ遺憾ナキニ至ランコトハ社會政策ノマサニ期待スル所ナラザルヲ得ズ。唯ダ道路橋梁ノ如ク運送要素ノ一ノミヲ供スルト異リ『乘

物』モ『動力』モ一切ノ運送要素ヲアゲテ之レヲ供スルモノナルガ故ニ、全然無償主義ヲ取ルコトハ近キ將來ノ理想タルヲ得ザルノミ。電車ヲ公營造物ト認メ其料金ヲ手敷料（使用料）ト認ムト云フハ公企業ノ代價ヨリモ低廉ナル料金トスト云フト同意義ナラザル可カラズ。即チ或ハふつくすノ所謂一ノ『追加經營』トシテモ經營スルコトアル可ク、然ラザルマデモ嚴ニ費用支辨主義（即チ手敷料原則）ニ基キ最低限ニ其料金ヲ置キテコン始メテ公營造物タルノ經濟上ノ實ヲ具備スルナリ。法律上形式上條文ノ解釋ニ拘泥シテ自家ニ便アル場合ニ於テ公營造物論ヲ提出シツ、其實ニ於テ公營造物トハ却テ反對ノ主義ヲ以テ經營スルハ甚シキ矛盾ナリ。況ンヤ資本償却以外追加ハサテ置キ、反對ニ餘剩ヲ産ミ出ス可キコトヲ始メヨリ目的トスルモノヲ公營造物ナリ手敷料ナリト云フヲヤ。

然リ然リト雖モ社會政策ノ立場ヨリ云ヘバ電車其モノノミニ觀察ヲ限局スルヲ得ズ、都市社會政策ハ都市事業ノ全體ヲ通覽シテ其目的ノ最

大實現ヲ期セザル可カラズ。是レ實ニ英國ヲ始メ歐洲各國ノ現ニ取ル所ノ主義ナリ。サテ此主義ヨリ云ヘバ。電車ノ經營ガ始メヨリ一ノ餘剩經營即チ一ノ公企業トシテ特殊報償原則ニヨラズ若干ノ經營利益ヲ產ミ出スコトヲ目的トスルハ決シテ不可ナラズ。歐洲諸國ノ實際ニ於テ市營電車ハ若干ノ利益ヲ生ジツ、アリ又タ生ズ可キ様ニ其料金ヲ定メツ、アルナリ。是レ何故ゾヤ。其理由ハ極メテ簡單ナリ。都市ハ其荷ヘル多クノ社會政策の施設ノ爲メニ多額ノ經費ヲ要ス、而モ今日ノ都市財政ノ現狀ニ於テ其凡テヲ租稅并ニ其他ノ收入ニヨリテ支辨スルコト不能ナリ、社會政策ノ施設ハ急務ナリト雖モ市民課稅ノ過重ハ更ラニヨリ惡キ事ナリ。茲ニ於テ都市ハ其社會政策ヲ行フ爲メニ有力ナル財源ヲ要ス電車ノ如キハ其一ナリ。故ニ電車ノ經營ヨリ若干ノ餘剩ヲ收メ之ヲ社會政策施設ノ財源トナスナリ、電車賃ノ低廉ハ甚ダ希シ然レトモ之ヲ少シク高クスルモ、其ハ更ラニ必要ナル他ノ社會政策の施設ノ代價タルガ故ニ市民ヲシテ之

ヲ忍バシムルノミ。此理由ナケレバ電車ガ公企業トシテ利益ヲ圖ルコトハ之ヲ許ス可キニラズ、ヨリ大ナルヨリ急ナル社會上ノ必要ヲ充タスガ爲メニ小ナル犧牲ヲ敢テスルノミ、是レ議論ニ非ズ歐洲各都市ニ現ニ行ハレツツアル所ノ事實ナリ。然ルニ東京市ノ如ク社會政策の施設ニ見ル可キモノ少ク而シテ電車益金ハ之ヲ一般經濟不足ノ補填ニ充テントスルガ如キハ文明國ノ社會政策ノ認承シ能ハザル所ナリ。

今現ニ問題トナリツツアル舊回數券ノ効力ノ如キハ法律上或ハ重要ノ問題タル可シト雖モ社會政策并ニ經濟上ヨリ見レバ一小問題ノミ。大ナル問題ハ電車賃其モノノ額ト電車ガ之ニ對シテ供スル役務ノ實質トナリ。殊ニ勞働者割引時間ノ短縮ノ如キハ最モ慎重ノ考慮ヲ要ス。現在ノ問題其モノハ小ナリト雖モ之ニ關シテ起ル所ノ議論ノ重要ハ小ナラズ。即チ一方ニ電車ヲ營造物ナリト斷定シ其賃金ハ使用料ナリト云フ論ト、他方ニ電車ノ乘客ニ對スルハ純然タル商法ノ運送行爲ナリ云々ト云フ論ト是レナリ。

東京市ノ電車ハ市ノ營造物ナリヤ否ヤノ問題ハ勿論我國法ノ解釋論ニシテ予等門外漢ノ預リ知ル所ニアラズ。然レトモ我國法ガ之ヲ如何ニ定ムトモ其ハ形式ノミ實質ニアラズ。我等ハ形式ヲ輕シトシ實質ヲ重シトス。形式上營造物タルコト疑ナシトスルモ、我東京市ノ電車ハ其經濟上財政上ノ性質ハ其成立ノ歴史ノ上ヨリ、其現ニ經營スル主義ノ上ヨリ、而シテ殊ニ其料金定ラムル標準ノ上ヨリシテ決シテ公營造物ト云フ能ハズ、一ノ公企業ナリ。而シテ其徴收スル料金ハ斷ジテ手数料(使用料)ニアラズ代價ナリ。使用料ナル語ニ就テ美濃部博士ハ「市町村制等ニ於テ手数料ト使用料トヲ區別シテ一個人ノ爲メニスル事務ニ付テハ手数料ヲ徴收シ得可ク、營造物ノ使用ニ對シテハ使用料ヲ徴收シ得ヘキモノト爲セルカ如キ亦悉クハ營造物ノ語ヲ專ラ物的設備ノ意ニ解セルモノナル可シ」日本行政法第²³⁾四卷三九六頁ト云ヒテ之ヲ難ズルモノノ如ク又附註ニ「學校生徒カ校長教員ヲ使用シ、入院患者カ醫員ヲ使用スト云フカ如キハ全然使用ノ語義ニ反スルモノナリ」ト主張セラレタレトモ、予ノ寡聞ノ限リニ於テハ此區別ハ或ハぶろいぜんノ Gemeindeabgabengesetz²³⁾ヲ其儘採用シタルモノニアラザルカ。即チ此法律ニヨレバ營造物使用ノ手数料ト行政手数料トヲ區別シアリ。又タげらば

雜 錄

公營造物ニ關スル美濃部博士等ノ所論ヲ讀ミテ(三、完) 第三卷 (第六號 八七七)

九七

ハ手数料ヲ區別シテ

- 1) Gebühren für die im öffentlichen Interesse unterhaltenen Veranstaltungen
- 2) Gebühren für einzelne Handlungen der öffentlichen Organe

a. allgemeine

b. besondere

1. Justingebühren

2. Verwaltungsgebühren

トナセリ。我國法ニテハ前者ヲ手数料トシ後者ヲ使用料ト名ケタルモノニシテ、必ズシモ營造物ヲ以テ物的手段ニ限リタルニアラザルガ如シ中ラザルヤ。又タ博士ガ學校生徒ガ教員ヲ使用スト云フハ使用ノ語義ニ反スト云ハレタルハ「使用」ナル邦語ニ拘泥シタル論ナリ、獨逸語ナレバ Benutzung²³⁾ト云ヒタリトテサマデ語義ニ反セズ、又タ使用ト引放シテ云ハバ可笑シケレトモ「使用料」ナル文字ハ右ノ如ク手数料ノ一種ニ假リニ當テタルニ過ギザレバ邦語ノミニ就テ語義ヲ論スルコトハ少シク酷ナリト感ズ。

現在ノ東京市電車ハ經濟上財政上ヨリ見レバ公營造物ニアラズシテ公企業ナリ、其料金ハ使用料ニアラズシテ一ノ代價ナリ、然レトモ又タ此代價ヲ純然タル私流通經濟ノ價格ト同一視スルハ公企業ノ性質ヲ無視スルモノナリ。事實ニ

23) 前掲しゆてんげの辭書第二版第二卷第六頁以下

於テ東京市電車ノ料金ハ全ク營業的ニノミ算出セラレ、毫モ公共ヘノ顧慮殊ニ社會政策的の注意ヲ含マザルノ狀アルハ明ナリト雖モ、之ヲ私經濟ノ價格ト全然同一ナリトスルハ過ギタリ、否現在ニ於テ其ハ當レリトスルモ、東京市電車ガ純然タル一ノ營業トシテ末永ク經營セラレ其料金ガ單一ノ價格トシテ定メラルルコトハ、社會政策ノ立場ニ立ツ我等ノ到底服シ得ザル所ナリ。我等ハ他ノ社會政策施設ヲ可能ナラシメン爲メニ若干ノ電氣益金ハ之ヲ寬假スト雖モ、之レガ爲メニ電車ガ純營業ニ墮落シ去ルコトハ極力防止セザル可カラズト確信ス。故ニ舊回數券ノ效力ヲ主張スルト云フ小ナル事ノ爲メニ東京市電車ノ料金ガ純然タル價格ナリトノ一事ガ法律上ニ確定シ、法ノ威力ヲ以テ永ク之ヲ變ズル能ハザルニ至ルコトアラバ、其ハ取返シ難キ大損失ナリト思ハザルヲ得ズ。松本博士ガ私法ノ立場ニ立チテ力說セラルル所唯々敬服ノ外ナシト雖モ、私法ノ及餘リニ鋭クシテ却テ私法ノ專制時代ノ來ルコトハ我等ノ懼ルル所ナリ。公法

ノ弊ヲ私法ヲ以テ救フノ急務ナルガ如ク私法ノ弊ヲ公的見解殊ニ社會政策ヲ以テ救フコトモ亦急務ニアラザルカ。あんどん、めんがーノ所謂『法律學ノ社會的職分』又ハ牧野博士ノ法律ノ社會化トハ或ハ此意味カト思ヘリ。サレバ予ハ先ツ公營造物ト公企業トノ區別ヲ力說シ、タトヘ法律上形式上公營造物タリトモ實質ニ於テ公企業タルモノアルコトヲ明カニスルト共ニ、公企業ハ公營造物ト異ルガ如ク又タ私企業トモ異リ、純然タル價格原則ノ下ニ立タス又タ立ツ可キニアラザルコトヲ確認スルコトハ、此意味ニ於テ必要ナリトハ予ガ今抱ク所ノ管見ノ全體ナリ。『公營造物カ然ラザレバ即チ營業カ』ト唯々二者ノミヲ認メ公營造物ノ使用料ニアラザレバ則チ流通私經濟的ノ價格タルノ外ナントスル見解ハ、餘リニ狹クシテ事實ニ合セズ餘リニ獨斷的ニシテ却テ害アルコトヲ力說セントスルコトガ、予ガ此管見ヲ開陳ス可ク専門以外ノ書物ニマデ涉リテ冗長ノ一文ヲ草シタル理由ナリ。『此所民法入ル可カラズ』ノ制札ノ濫用ハ懼ル可シ

『此所經濟學入ル可カラズ社會政策入ル可カラズ』トノ制札ノ濫用モ亦恐ル可シ。予ハ美濃部博士ガ門戸ヲ開放シテ其日本行政法ニモ若干經濟學ノ立入ルコトヲ許サレンコトヲ望ムト共ニ、松本博士亦タ其私法論中ニ社會政策ノ參入ヲ寛容セラレンコトヲ祈ラザル能ハザルナリ。

妄言多罪 (終)

(追記)前號一一〇頁佛語セルウヰス・プアエリツク以下ノ括弧中ノ一段ハ之ヲ取消ス。よりす・ぶろつく 佛國行政辭典 Dictionnaire de l'administration française par Maurice Block 5, E. 1905 ナ見ルニ service public, entreprise public 〃語ヲ用ヰズ Entrepreneur, Entreprise 〃説明 〃獨逸 〃 Unternehmer, Unternehmung 〃通解ト同シカリス。travaux publics 〃亦タ公營造物ノコトナラン。

Etablissements publics et d'utilité publique 〃項前者ヲ以テ des parties de l'administration publique ayant leur individualité, leur vie propre トスルモノ公營造物ニ近ク後者 〃 les institutions privées qui, à raison des services qu'elles rendent obtient du gouvernement la qualité de personne civile トンハ明カニ公營造物ニモ公企業ニモアラズ。英語 〃 public utilities 若シ然リトスレバ前號ノ原解ハ明白ニ誤謬ナリ。